

2014.7.20

「東海道五十三次を終えて」

こんにちは、参議院議員の西田昌司です。今日は7月20日の日曜日です。今日は大津市の石山から三条大橋まで約20km歩いて参りました。

実は私は今年の1月から東海道五十三次を歩いてみようと思ひ、お正月を過ぎた頃から歩いてまいりましたけれども、今日でちょうど500km近い道のりを歩くことが出来ました。

歩いて行きますと、それぞれの宿場町で昔の風情を残している町並みがあり、首都圏では都市化して発展し見る影も無いという所もあり、逆に寂れて見る影も無いという所も実に沢山ありました。そしてそう言ったかつての面影を残している街道町を歩いていますと、日本の原風景というのは本当に美しいものであったのだらうと思ひました。外国人が日本に初めてやって来てこの街道を歩いてそれぞれの地域で素晴らしい町並みや美しい景色を見て感動したという話を聞いたことがありますけれども、私も本当にそのような思いを致しました。

明治の開闢以来150年経ち、日本は人口も多くなり、工業的にも

産業的にも発展したように見えますけれども、結局は本当に美しい物を無くしてしまったのではないかという思いもつくづく感じました。ですから安倍内閣も国土強靱化や、もう一度国土軸を作り直していくことも掲げておりますけれども、単に産業が発展するという事だけでは無く、それぞれの地域にそれぞれの暮らしや文化が有る訳ですから、その維持が出来るようにする仕組みを作っていくべきだという事を感じました。

そして実は私はこの五十三次を歩いている間に大峰山にもお参りさせて頂きました。10年ほど前に行って以来、2回目でしたけれども、毎日20km近く歩いて来たために体も締まり、今回は前回よりは楽に登る事が出来ました。しかし行場ですから、かなり厳しい岩場等も有りました。そしてその話を大先達の先輩にお話したら、「自分は60年間毎年大峰山を上がって来た。80歳近くになった今になって、結局行場に行くことでは無く、歩き続ける事が本当の修行であるということを感じた。」というお話を頂きました。私もこの五十三次を歩いて来まして全く同じ事を感じました。歩くこと＝修行ということで、毎日座禅を組んでいるような感じでありました。無心になりながら、自己をもう一度見つめなおす大変良い機会

に恵まれる事ができたということでもあります。 本日は京都の三条大橋から久々にビデオレターをお届けさせて頂きました。

本日も御覧頂きありがとうございました。